

ダンゴムシのせい長日記～わたしの手のひらの中で生まれたよ！～

呉市立荘山田小学校 3年 重田 優奈

1 研究しようと思ったわけ

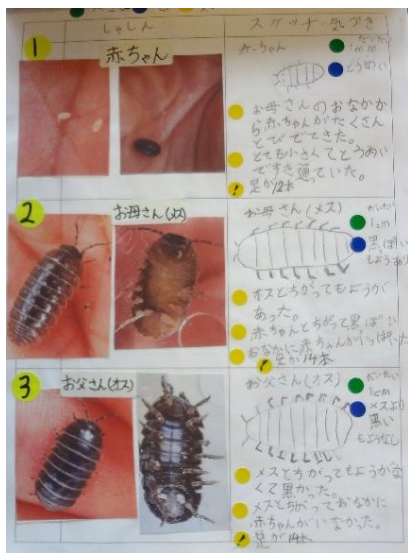
平成30年5月19日(土)、わたしの手のひらの中で、ダンゴムシの赤ちゃんが生まれました。わたしは、自分の赤ちゃんが生まれたくらいうれしい気持ちになった。お母さんもわたしを生んだときこんな気持ちだったのかなと思った。

手のひらの中で元気いっぱい動く赤ちゃんを見て、大切に育てたいと思い、ダンゴムシのすみか、好きな食べ物、好きな運動などを研究して赤ちゃんを育てようと思ったため、この研究をすることにした。

2 研究の計画

- (1) ダンゴムシの赤ちゃんたん生(ダンゴムシの体のちがい)
- (2) ダンゴムシの1年
- (3) ダンゴムシのかい方
- (4) ダンゴムシの赤ちゃんのせい長記ろく

3 ダンゴムシの体のちがい



<ダンゴムシのかんさつきろく>

【考えたこと】

わたしはダンゴムシが大すきで、昨年の秋からダンゴムシのかんさつを始めた。10月ごろはダンゴムシがたくさんいた。でも、だんだんさむくなってきてダンゴムシが見られなくなった。ブロックを上げてみると、ダンゴムシが丸まっていた。ちょうど一番さむい1月中ごろのことだった。ダンゴムシも人間と同じようにきせつによって住む場所や食べ物もかえているのかなと思い、調べたくなった。

4 ダンゴムシの1年

【よそう】1年中、いつでもどこでもいる。

【けっか、わかったこと】きせつによって、ダンゴムシの数はふえたりへったりする。



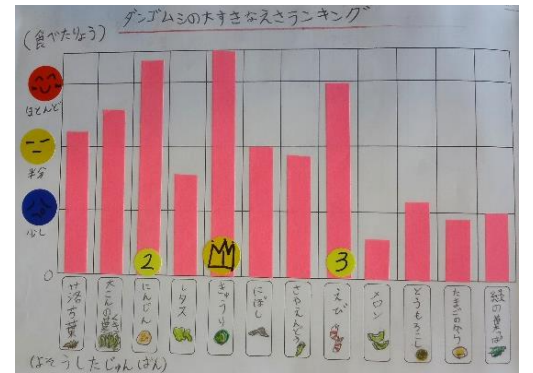
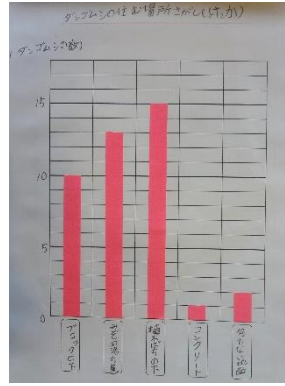
<ダンゴムシの1年間のようす>

【考えたこと】

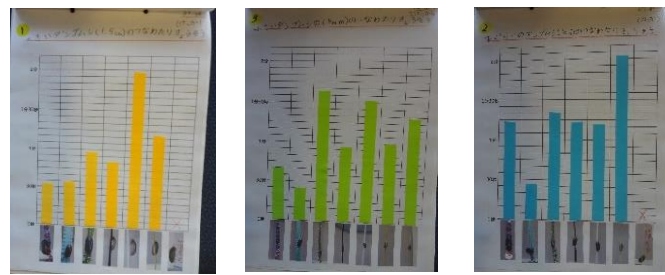
春と秋はダンゴムシが元気よく歩いていたが、夏と冬はほとんど歩いていなかった。春と秋はちょうどいいおん度なので活動しやすいと考えた。逆に夏はあつすぎたり、冬はさむすぎたりして活動しにくいと考えた。また、春と秋をくらべると、秋は冬にむけてだんだんさむくなるから春にたまごをうむのではないかと考える。きせつによって生活の仕方がかわることが分かった。

5 ダンゴムシについてのさまざまなデータ

- (1) ダンゴムシの住む場所
- (2) ダンゴムシの好きなえさ



- (3) ダンゴムシのつなわたりきょうそう



6 ダンゴムシの赤ちゃんのせい長記ろく

よそうとちがって、生まれて30日たっても3mmしか大きくなりません。ゆっくりせい長することが分かった。30日ぐらいたったらもうようが出てきたので、メスなのかなと考えた。

かんさつしていると、ダンゴムシの近くにとう明なかかわが落ちていた。かわをぬぐたびに少し体が黒っぽくなっているような気がした。ダンゴムシはかわをぬぐたびに大きくせい長しているのかなあと考えた。

100日たっても体の大きさは5mmで、あまりへんかが見られなかった。本で調べてみると、2～3さいになると2cmぐらになると書かれていた。わたしは2cmぐらいのダンゴムシを見たことがないので、ぜひさがしてみたいと思う。

よそうでは、120日後に赤ちゃんを生むと考えた。本で調べてみると120日後に赤ちゃんを生むことが分かった。でも、まだ赤ちゃんを生む様子が見られないので、これからもかんさつしつづけていきたいと思う。

7 まとめ

赤ちゃんはとう明で米つぶより小さい。メスはオスにくらべて体にもようがあるものが多い。体の大きさは、年れいととも大きさがかわることが分かった。

きせつによって生活の仕方がちがっていた。とくに冬は丸まってねむっていた。

ダンゴムシの好きな場所は、くらくてじめじめしてすずしい場所で、とくに植木ばちの下が多かったので、生きるために工夫していることが分かった。また、食べ物は、落ち葉だけでなく人間が食べるものも食べることが分かった。ダンゴムシが一番好きなえさは、きゅうりだった。全体てきに見ると水分が多い食べ物がすきだと分かった。

ダンゴムシはかわを何回もぬぎながらだんだんせい長していく。色はかわをぬいでいくたびに、とう明から黒にかわっていく。生まれたときは足が12本だったが、15日後からは、14本にふえることが分かった。

8 けんきゅうの感そう

今年の5月にわたしの手のひらでダンゴムシの赤ちゃんが生まれた。このときから赤ちゃんのいのちを大事にすることのためにけんきゅうしようと思った。けんきゅうを通して、ダンゴムシのしゅるいやきせつによって生活の仕方がかわることが分かった。歩き方も工夫していた。

かんさつしているとき、何回かかわをぬいだ。今後は、何回かわをぬぐのか、2cmぐらいのダンゴムシが本当にいるのか調べたい。

昨年9月から長期にわたり研究を行い、「ダンゴムシのことを知りたい」という強い思いが伝わってきます。

自分の手のひらで赤ちゃんが誕生した奇跡から課題を見出し、観察や実験を計画的かつ継続的に行っています。観察や実験の結果を表やグラフ、ランキングを使い、視覚的にまとめるよう工夫しています。